

第 1 回桜の苑指定管理者候補者選定委員会 会議概要

- 1 日 時 令和 7 年 9 月 2 5 日（木） 午後 2 時開会
- 2 場 所 米子市淀江支所 2 階 大会議室
- 3 出席者
委 員 藤井委員長、村山副委員長、雑賀委員、板井委員、坪倉委員
事務局 深田組合事務局長、本池施設管理課長、小林課長補佐、安田担当課長補佐、熊本係長
- 4 会議概要
 - [1 開 会]
 - [2 事務局長あいさつ]
 - [3 委員紹介]
 - [4 委員長、副委員長の選任]
藤井委員が委員長に、村山委員が副委員長に選任された。
 - [5 諮 問]
事務局長から、選定委員会委員長へ諮問書を手交した。
 - [6 議 事]
 - (1) 会議の運営について
会議の非公開について、了承された。
 - (2) 選定基準の説明及び確認
施設管理課長が、選定基準・評定票の審査項目について説明した。
【意見・質疑等】
(委員) 圏域内事業者を活用する提案については、評価の際に加点するという記載があるが、何点プラスするなど基準があるか。
(事務局) 何社という基準はないが、圏域内優先活用の度合いに応じて上位側に評価してください。
 - (3) 最終評定の決定方法について
最終評定（順位付け）の方法について、各委員の評定を踏めたうえで、選定委員会として一つの評定とする方法を提案し、委員の協議により決定した。
 - [7 提案説明会]
(※提案説明を行う団体を「説明者」と表記する。)
 - (1) さくらのその斎苑管理グループ
「さくらのその斎苑管理グループ」が企画提案書に基づき提案説明を行った。
【主な質疑・応答】
(委員) 配置職員について、常勤 7 名、非常勤 7 名の 14 人で人件費の積算がしてあるということでしょうか。
(説明者) はい。
(委員) 「雇用済み」とはどういう意味か。
(説明者) 現在の職員の継続雇用出来ればよいが、出来なかった場合、同様の施設での経験のある当グループの人材を転勤配置し、経験者と重複しながら研修を行い、入れ替えていく計画。経験済みの人材、継続従事者を「雇用済み」と表記している。
(委員) 最初に配置される人件費でなく、鳥取県 30 代後半の平均給与で積算しているということか。
(説明者) 単純に平均ではなく、そこをベースに配置する役職に適正と思われる金額で積算している。引継雇用については、現在の額で雇用出来る場合もあれば、当社の金額まで落とすという場合もある。十分雇用できるであろう数値で積算している。
(委員) 急なシフト変更もあると思うが、どう対応するか。また、休日出勤、残業で人件費が上がっていくのではないか。

- (説明者) シフトの変更があることは雇用時に理解していただいたうえで、雇用する。
仮シフトを作成し、予約状況を見ながら、毎日午後4～5時頃に全員に翌日の火葬件数・シフトを確認する体制とする。
休暇等を考慮し、ある程度余裕をもって計画している。基本的に残業があるという施設ではないが、研修、月末の出勤、代替休が取り切れない場合などの時間外、労基管理ソフトで確実に手当等を支給する。
- (委員) 火葬炉が停止・トラブルがあった場合、第一報告はグループで、炉メーカーはその後ということでしょうか。
- (説明者) 微細なことであれば私どもの知識で充分対応できる場合が多い。メーカーから回答待ちということも多く、まず第一の報告はグループに行く。
ほぼ同時にメーカーにも連絡し、両方の見解を踏まえて対応する。火葬ができないということがないような体制。複数の相談窓口があるということを含めとしている。
- (委員) 構成団体のグループ会社に葬祭業者があると思うが、他の葬祭業者との公平性、中立性の担保はしていただけるか。
- (説明者) 火葬業務に従事するイーグスグループで情報管理を徹底する。また内部の企業に対するクロスモニタリング等も実施し、平等性、公平性の確保を維持する。
逆に、葬祭業者に対して、副葬品削減や予約厳守などをお願いなど、葬祭業者を引張っていけるような、正しいあり方を示せる点、また、地元の風習・慣習等について、連携が図れる点をメリットと考えている。
- (委員) 火葬場を優先して予約できるなど、そのあたりのチェック体制は。
- (説明者) 空予約などは関係者にすぐ判るものであり、信頼関係にも関わるもの。厳しく管理する自信がある。
- (委員) 3年で地元雇用100%としているが、実現が可能か。
- (説明者) まずは経験者を配置し、新人育成、入替えを行っていき、3年で十分育てられる自信がある。ただし、条件により地元雇用にかかる場合もあるので、経験上、3年と提案している。

(2) 東亜・宮本グループ

「東亜・宮本グループ」が企画提案書に基づき提案説明を行った。

【主な質疑・応答】

- (委員) 利用者アンケートが、年2000数件のうち、200件。この回答方法は紙か。スマホなど他の手法の考えはないか。
- (説明者) 現地での回答と、事後依頼による郵送のものがあるが、200件の内訳ですが、現地での回答この4年間で2件、残りは郵送。今後は様々な手法も行っていく。
実績としてアンケートが回収しにくい、その中でこれだけアンケートを収集した。
- (委員) 火葬件数が増えているが、人員は5年間変わらないということでしょうか。今後の人件費が値上がりすることに対する対策についてはどう考えているか。
- (説明者) 火葬件数に対しては、直近の実績の2割程度増えても対応可能。
人件費の上昇、過去の実績を鑑みて対応できる積算をしている。
維持管理業務人の手で行う業務についても、人件費の上昇を影響を大きく受けますのでここまで上がっても大丈夫であろうという数字で設計している
- (委員) ISO認定の内容、またこれを持つことによる利点は。
- (説明者) 例えば、ISO 9001 品質マネジメント、誰が従事しても均一かつ、要求水準以上のサービスが提供できる。ほか、ISO 14001 環境マネジメント、ISO 27001 情報マネジメントにより、業務の管理を徹底している。
- (委員) 研修体制は十分ということか。
- (説明者) 採用後、当社規定の研修を行い、基準を満たすまで教育を行う。引続き、定期的な教育、指導を実施している。
- (委員) 周辺の環境の整備について、どう考えているか。周辺住民とのコミュニケーションなど
- (説明者) 開場日は施設周辺の巡回記録を付け、可能な範囲は自社で、その他は道路管理者路連携を取り対応する。
葬祭業者への説明会を実施しており、その中で地元関係者にも、参加してもらい意見をを出してもらい、業務改善に活かしていく。

[8 議事]

各委員の評定を踏まえ調査審議を行い、選定委員会として評定を行った。
答申に特記すべき事項について、意見はなかった。

[9 その他]

[1 0 閉会]